

カボチャ新品种「ジェジェJ」を利用した端境期出荷のための新栽培出荷体系

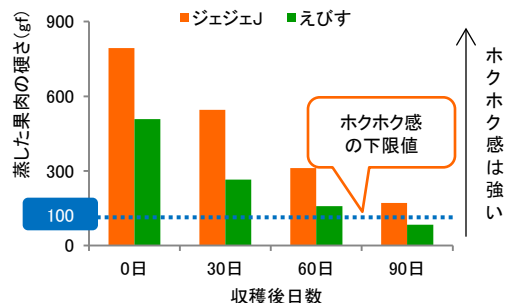
高貯蔵・短節間性カボチャ「ジェジェJ」を利用すると、高単価期への出荷と単収の増加により農業所得の向上を実現

研究開発の背景

- ・1～3月に販売されるカボチャは80%以上が外国産で占められ、国内産カボチャの周年供給が求められている。
- ・この時期に出荷するには、11～12月に収穫する秋カボチャを貯蔵して出荷する必要があるが、既存品種では長期間の貯蔵が困難である。
- ・秋カボチャは1株に1果程度しか着果しないため収量性が低い。このため、2月に国産カボチャを出荷可能な栽培出荷体系が求められている。

研究成果の内容

1. 「ジェジェJ」は貯蔵中の果肉の軟化や果皮の退色が少なく、90日程度の貯蔵が可能



貯蔵後の蒸した果肉の硬さは硬く、貯蔵開始から90日間にわたってホクホク感を維持。

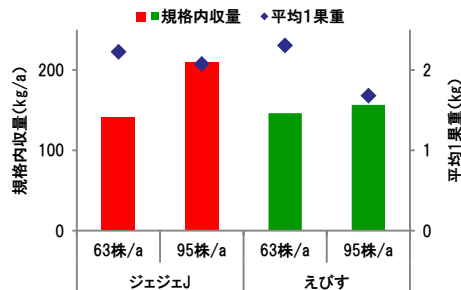


果皮の緑色は濃く、長期間の貯蔵を行っても黄化による色あせは少なく、貯蔵後約90日間は良好。

2. 8月下旬は種、11月下旬収穫を行った場合、貯蔵により端境期の2月に出荷が可能
3. 「ジェジェJ」はつる長が短く、密植により増収が可能

初期のつる長は短く密植栽培が可能で、慣行栽培と比較して1果重や果実品質を低下させることなく、4割程度の増収が可能。

「ジェジェJ」は北海道農業研究センターの育成品種



導入メリット

新栽培出荷体系を導入することで、**出荷量は1.2倍、単価は1.4倍、所得は2.8倍**になる

出荷体系	出荷量 (kg/10a)	単価 (円/kg)	粗収益 (万円/10a)	農業所得 (万円/10a)
新体系 (ジェジェJ)	1,778	350	62	28
従来体系 (えびす等)	1,462	250	37	10

- 注) 1. ジェジェJの単価は2014年の農協販売実績。えびすの単価は2011～2013年の平均単価。
 2. 農業経営費は鹿児島県農業経営管理指導指標を使用し、種苗費、肥料費、諸材料費、労働費については、栽植密度に応じて試算。
 3. 出荷量: 新体系は貯蔵後の腐敗率10%を差し引いた数量。従来体系は収穫直後の数量。

外国産で独占される**国内産端境期**に出荷することで自給率向上に貢献できる

出荷体系	8月	11月	12月	1月	2月
新体系 (ジェジェJ)	は種	— 収穫	貯蔵	貯蔵	出荷
従来体系 (えびす等)	は種	— 収穫	出荷	〈国内産端境期〉	〈国内産端境期〉

期待される効果

- ・高単価期への出荷と単収の増加により農業所得が向上する。
- ・外国産で独占される国内産端境期に出荷することが可能で、自給率向上に貢献できる。

開発機関: 鹿児島県農業開発総合センター 【予算区分: 競争的資金】

導入をオススメする対象
 8月下旬以降のは種による栽培が可能
 な地域のカボチャ生産者